

## かけがえのない「いのち」を輝かせて生きよう

立岡 誠

たった一つだけの私の「いのち」

私が両手をひろげても、  
 お空はちっとも飛べないが、  
 飛べる小鳥は私のように、  
 地面を速くは走れない。  
 私がからだをゆすっても、  
 きれいな音は出ないけど、  
 あの鳴る鈴は私のように  
 たくさんな唄は知らないよ。  
 鈴と、小鳥と、それから私、  
 みんなちがって、みんないい。

### ■「いのち」ってどんなもの？■

広辞苑には、「生物の生きてゆく原動力」と書かれています。私たちは、ひもじくなるから食事をします。つまり、いろんな食べ物を胃に送り込むのです。その後は、自分の意志ではどうにもなりません。食べ物は自分の意志とは関係なく、消化されて体温を保ったり手足を動かしたり考えたりすることのもとになる栄養として、また、体中の組織や酵素をつくる養分として血液で体中に運ばれます。

また、自分の意志とは関係なく、私たちが眠っている間も、心臓は体中に血液を送り続け、肺は呼吸を続けています。

ちょっと考えると不思議だと思いませんか。こんな体の動きのすべてを 司る大きく不思議な力を持つものを「いのち」と呼んでいます。

この詩は、多くの皆さんが知っているかと思いますが、山口県出身の童謡詩人金子みすゞの作品の中で、特に多くの人々の心をとらえている詩です。

金子みすゞは、鈴と小鳥と私をくらべていますが、皆さんは、友達や近所の人たちと自分をくらべてみてください。ひと目見て分かる顔つきや体つきはもちろん、これまでに経験してきたことや思っていること、考えていることなどは一人一人ちがっています。私たち一人一人が「世界中でたった一人の私」なのです。

でも、だれにも共通していることが幾つかあります。その一つは、まちがいなくだれもが、たった一つの「いのち」を持っていて、その「いのち」には限りがあり、一度なくすと絶対に取り返せないということなのです。

その二つめは、だれもが遠い遠い昔に生きた先祖からの「いのち」のバトンを受け継いで、今を生きているということです。私たちだれもが、お父さんとお母さんがいて生まれてきました。お父さんにもお母さんにもそれぞれにお父さんとお母さんがいました。あなた方のおじいちゃんとおばあちゃんですね。そのおじいちゃんとおばあちゃんにもまた、……。

その三つめは、だれもが動物や植物の「いのち」をいただいで、生かされているということです。私たちがいただくご飯の米粒もパンの原料の小麦の一粒一粒も、朝顔やひまわりの種と同じように、種としてまけば、芽を出す「いのち」を持っているのです。肉や魚はもちろんで

す。だから、食べ物への感謝の心を込めて「いただきます」「おごちそうさまでした」と手を合わせるのですね。

その四つめです。だれであっても、自分の「いのち」は自分だけのものではないということです。酔っぱらい運転や暴走運転をして、いのちを失う人や自殺をする人が大勢います。罪を犯して一生を台無しにする人がいます。このような人は、「自分のいのちは自分だけのもの」と勘違いしているのではないのでしょうか。

万葉集という我が国に現存する最も古い歌集には、

「銀も金も玉も何せむに、勝れる宝 子に及かめやも」

という山上憶良の歌が載っています。

今も遠い昔も変わりません。子どもは両親にとって、自分の「いのち」と同じか、それ以上に大切な宝です。両親だけではありません。おじいちゃんやおばあちゃんにとっても、いや社会全体にとっても希望であり宝なのです。

### 限られた「いのち」だから

皆さん一人一人は、他の人と異なる個性を持っていますが、これまで述べてきたように、どれもが一樣にかけがえのないたった一つの「いのち」を持っているのです。でも、「いのち」

は永遠ではありません。必ず終わる時が来ます。

少年老い易く学成り難し

一寸の光陰 軽んずべからず

未だ醒めず 池塘 春草の夢

階前の梧葉 すでに 秋声

これは、中国宋代の学者朱熹の詩です。前段は「皆さんが長いと思っている少年時代ですが、振り返ってみれば、大変短いもので、あっという間に年老いてしまうものです。それに引き替え、学問の道は遠く深いものです。だから、少年時代には、少しの時間もおしんで勉学に努めなければなりません」という意味の言葉かと思えます。また、後段は「池のほとりの春草の上に寝ころんで甘い夢を見ているうちに、秋風が吹き始める。つまり、若いと思って油断していると、すぐに年老いてしまう」と言うのです。

おじいちゃん、おばあちゃんになって、自分の一生を振り返るとき、「いい人生だったな」と思える自分の一生をつくるために、小学生の今から生活のし方を考えようではありませんか。

### 「いのち」を輝かせて生きる

皆さん、「いのち」を輝かせて生きている姿って、どんな姿を思い描きますか。

将来の「リーガー」を目指して、サッカー部に入り汗を流しながらがんばっている姿、オリンピック選手になることを目指して、自分が選んだスポーツの練習に熱中している姿、野球のイチロー選手や水泳の北島選手、スケートの浅田真央さんのように、世界記録に挑戦し続ける姿、こんな姿はだれの目にも輝いて見えます。

しかし、新聞やテレビで取り上げられなくても、世の中の多くの人々が自分を、自分の「いのち」を輝かせて生きています。

正君の家は野菜づくり農家です。お父さんとお母さんは、ほとんど毎日ビニルハウスの中で、それぞれの野菜に合った土づくりや種まき・苗の世話など、忙しく働いています。特に、気を付けていることは農薬をできるだけ使わないで育てることです。苗が順調に育つことやお客さんに喜んで買っていたことがお父さん、お母さんの喜びです。野菜を売って得たお金で家族のくらしができます。

美香さんのお父さんは、造船所で鉄板と鉄板をつなぐ溶接の仕事をしています。「自分たちが造った船が完成し、世界の海で活躍することが喜びだ」と話しています。「お母さんが家族の世話をしっかりやってくれるから、安心して働ける」とも言っています。

多くの人が、それぞれに仕事を持ち、その仕事を通して社会とつながり社会に役立ち、私たちのくらしを支えているのです。仕事の仲間や家族と協力しながら、社会のため、家族のために真剣に働いている人々は輝いています。

### まずは「ゆめ」を描くことから

「医療関係の仕事に就くために、中学校では勉強を頑張ります。」

「正義感を強く持った弁護士になるために、中学校では勉強を頑張り、心を磨きます。」

「アナウンサーになるために、勉強と部活の両立を頑張ります。」

「学校の先生になって、子どもたちと明るく仲のよい学級をつくります。」

これらは、長崎市内のS小学校の卒業式で、卒業生が壇上から大きな声で発表した決意の例です。皆さんは、自分の将来にどんな「ゆめ」を描いていますか。

毎日毎日、先生やお母さんが「勉強せんば」というから、または、漠然と将来のためにということで勉強するのは、先に挙げた例のような自分の将来の「ゆめ」を実現するために勉強するのは、どちらが優れているかはっきりしていませんよね。

「立志は万事の根源なり」という言葉があります。「目標がある限り人は成長し続ける」という言葉も。野球のイチロー選手は、小学校三年生の時には、「プロ野球の選手になる」と自分の進む目標を定めていたそうです。また、イチロー選手は、テレビ対談の中で、「自分がどこを目指しているのかをはっきり自覚し、それによって自分が今何をすべきかを考え実践するようにしています」と話していました。

とは言っても、多くの人の場合、ゆめやあこがれは自分の成長とともに、いろんな出会いによって変わっていくものです。自分があこがれる人との出会いやたまたま出会った感動的な本

によることもありますし、家族の変化によることもあります。自分の長所や短所を深く知ることによって変わることもあります。変わってもちっともかまいません。大切なことは、常にゆめやあこがれを抱き、その実現に向けて努力し続けることです。

兵庫県に生まれ、大変貧しい中で懸命に勉強して小学校の先生になった東井義雄とういよしおという先生は、子どもたちに向けて、「自分を育てるのは自分です」と言い、次の詩を残しています。

自分は 自分の主人公

世界でただ一人の 自分を創っていく責任者

少々つらいことがあったからと言って

ヤケなんかおこすまい

ヤケをおこして 自分を自分でダメにするなんて

こんなバカげたことってないからな

つらくたって がんばろう

つらさをのりこえる 強い自分を 創っていこう

自分は自分を創る 責任者なんだからな

## 「ゆめ」に向かつて

たった一つの、限りある、かけがえのない「いのち」だから、ただ一回きりの人生だから、「いのち」を輝かせて生きよう。そのために、小学生の今から「ゆめ」を描いて、その実現を目指すそう。

そのために、だいじなことを考えてみましょう。

### (第一は健康であること)

健康を損こなうと気力も萎なえてしまいます。健康であるために、バランスのとれた食事を心がけ、「早寝、早起き、朝ご飯」をはじめとする規則正しい生活を心がけたいものです。

### (第二は強くて優しい心をつけること)

強い心とは、「したくても、してはいけないことはしない」「したくなくても、しなければならぬことは頑張るなり抜く」我慢強さです。また、自分が今しなければならぬことを先のばしにしたり、誰かに頼ったりしないで、自分で努力してやり抜く強さです。

また、優しい心を持つとは、他人の喜びを共に喜び、他人の悲しみを共に悲しむことのできる心を持って、家族や友達などの身近な人々をはじめ、生きとし生きるものに接することです。「自分に言ったりしたりしてほしくないことは周りに言ったりしたりしない」だけではなく、

「自分に言ったりしたりしてもらいたいことを周りに言ったりしたりしてあげる」ことです。私たちは、一人では生きていけません。ましてや社会に役立つ仕事などできません。私たちは周りの人々に、社会に、動植物に、そして、目に見えない大きな力に支えられて生きています。このことを深く考えてみてください。すると、「お陰様で」という感謝の心が芽生えるはずです。この感謝の心が「優しい心」の源です。

「優しい人ほど心の強い人だ」と言われます。優しく強い心を身につけ、行動に移すことができるようになってはじめて、周りの助けもいただき、「ゆめ」実現に向けて前進することができるのです。

### （第三はしっかりした学力を身につけること）

インターネットや携帯電話に代表されるように、科学技術はすごい勢いで進歩し続け、すべての産業はもちろん、私たちの毎日の暮らしさえも変え続けています。皆さんが大人になる頃には、もっともつと変化の速度は速くなっていることでしょう。皆さんは急激に変化する社会を生きるようになります。

そんな社会を生き抜くためには、しっかりした学力が欠かせません。そして、しっかりした学力は、確実な積み上げによって身に付きます。一位数のたし算やひき算、かけ算九九が確実にできないと難しい計算はできません。小学校で学習する漢字の読みや意味を分かっているだけでは、中学校から後の勉強は困難です。小学生の今つけるべき学力をしっかりと身につけるように心がけましょう。

学力は大きく三つに分けることができます。その一つは、知識や学び方・調べ方です。二つ目は、身に付けた知識や学び方・調べ方を活用して、考えたり判断したり、相手に分かるように話したり書き表したりする力などの能力と言われるものです。そして三つ目は、「ゆめ」に向かって自分を高めようとする心の強さです。「努力にまさる天才なし」という言葉があります。しっかりした学力を身に付けるために、「テレビを見たい、ゲームをしたい」の心に負けず、「テレビを消す、ゲームをやめる」強い心を身に付けましょう。

### まとめ

「楽あれば苦あり、苦あれば楽あり」という諺ことわざがあります。「今樂すること、今樂しいことだけを追い求めていると、後で苦勞することになりますよ」という教えです。あなたはどうですか。将来のことは考えずに今樂すること、楽しいことを求めますか。将来の喜びのために「今」をだいじと考えて努力しますか。どちらの道を選ぶかは、「自分を創る責任者である」あなた自身なのです。